

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2023年6月29日時点)

➤ **ウクライナ軍が南部及び東部の露軍に対する攻撃を強化する一方、露軍は、各正面において防御戦闘を実施するとともに、各地の軍事・非軍事施設に対する攻撃を継続している模様。**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約6万~7万人 (CSIS2月27日)

死者約20万8,000人 (「ウ」軍東部作戦管区報道官6月3日)

死傷者約18万人 (クリストファーセン・ノルウェー軍参謀総長1月22日)

「ウ」軍: 死者最大約1万3千人 (ポドリャク「ウ」大統領府長官顧問22年12月1日)

死傷者推定10万人以上 (クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)

「ウ」市民: 死者8490人以上、負傷者1万4,244人以上 (OHCHR4月10日)

- 「ウ」軍タヴリスク作戦区報道官は、ドネツク州 **クラスノホリウカ付近の複数の露軍陣地を制圧**した旨発表 (6月24日)
- 「ウ」軍第31機械化旅団は、ドネツク州 **リヴノピルを奪還**と発表 (6月25日)
- ゼレンスキー大統領は、「今日、我々が攻勢に出ている **全正面において、我々は前進**している」と発言。また、攻勢に参加している個別の部隊名に触れた上で、「占領者を打ちのめし、「ウ」人の命を救ってくれていることに感謝する」として謝意を表明 (6月28日)
- レズニコウ「ウ」国防相は、「「ウ」軍は過去数週間でロシアに占領されていた **複数の村を解放**したが、それは **反転攻勢におけるメインイベントではない**。それ[メインイベント]が生じたら、あなた方は全てを目にすることになる」と発言 (6月28日)
- ザルジュニー「ウ」軍総司令官は、ミリー米統参議長と電話会談を実施。反転攻勢の状況に関して、「**我々は戦略的優位を確立**することに成功した」と発言するとともに、前線の状況に関して、「**敵は一面に地雷を敷設することで陣地を維持**しようとしている」と指摘 (6月28日)

- パトルシェフ露安全保障会議書記は、6月4日から21日までの間、露軍は、「ウ」軍の戦車246両(うち西側製13両)、歩兵戦闘車152両(うち西側製59両)、戦闘装甲車443両、野戦砲・迫撃砲279門(うち西側製48門)、多連装ロケット砲システム42基、戦闘機10機、ヘリ4機、無人機264機、車両244両を破壊し、「ウ」軍の兵員の損失は1万3千人以上に上ると表明 (6月22日)

- EU外交当局は、「**2万4,000人の「ウ」兵**がすでに軍事支援ミッションの一環として **訓練**を受けている」旨発言 (6月26日)
- チェコ首相は、23年1月~5月の間、戦車24両、歩兵戦闘車76両、対戦車ミサイル645発、砲弾5万7,000発、対空兵器144門等を「ウ」に供与してきた旨発言 (6月27日)

【プリゴジン氏をめぐる動向】

- 6月23日、民間軍事会社「ワグネル」のプリゴジン氏は、**露軍がワグネル部隊を攻撃した**とした上で、「この国の **軍上層部がもたらす害悪は制止**されなければならない」と表明
- 24日朝、ワグネル部隊はロストフ州所在の **南部軍管区司令部を制圧**
- プリゴジン氏は、**モスクワまでの「正義の行進」を行う旨**表明、ワグネル部隊は、**24日中にモスクワ200km圏内まで到達したと主張**
- 24日夜、露大統領府報道官は、**ベラルーシ大統領仲介の下、プリゴジン氏がベラルーシへ送還**されること、ワグネル戦闘員らは罪に問われず、希望者は国防省と契約が可能となる旨発表
- 27日、ルカシエンコ大統領は、**プリゴジン氏がベラルーシに到着**したと発表するとともに、今後同国へ入国が予定されるワグネル戦闘員らのために野営地を提供する用意がある旨発言

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域



- ゼレンスキー大統領は、27日にドネツク州 **クラマトルスクのレストラン**に対する露軍のミサイル攻撃に関し、同攻撃に関わったとされる **地元の男性を反逆罪で起訴**すると表明。「ウ」情報当局は、攻撃が行われる数時間前に当該男性がレストランの映像を露軍に送っていたと指摘 (6月28日)

国土院標準地図を加工

資料源:ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等